

栃木県さくら市早乙女

株式会社和みの杜 ~「農業で地元を元気にしたい！」そんな思いで~

● 参入のきっかけ・目的

- ・ グループ会社の(株)高野商運の倉庫には米が保管され、JAの配送部署もあり、もともと農業を身近には感じていました。
- ・ 農産物運送の仕事が減少してきたこともあります、地域では耕作放棄地が増えており、この解消に少しでも寄与したいという思いと、当グループで働くドライバーの引退後の再就職先として、農業分野に参入しました。

● 参入地域（土地）を選んだ理由

- ・ 「農業で地元を元気にしたい！」という思いで法人を立ち上げました。
- ・ 全くのゼロからのスタートで、廃園となったりんご園や遊休農地を自ら探して再生し、さつまいも等の栽培を始めました。

● 主な販路

- ・ 主食用米は、グループ会社社員への販売・グループ会社の託児所・保育園の給食、または自社が運営する社員食堂。
- ・ さつまいもは、自社加工工場で干し芋にし、県内外の道の駅、スーパー、ネット販売しています。また、じゃがいもは大手スナック菓子メーカー等へ、小麦はJAへ販売。大麦、いちご、養鶏（卵）等は道の駅等や飲食店へ販売しています。

● 本業との相乗効果

- ・ 本業である運送事業を活かして、効率よく配達出来るうえ、送料を安価に抑えられます。配達先と繋がりを持つことで、新たな需要の掘り起こしや販路の拡大などが可能になっています。

苗の定植作業の様子



干し芋加工工場



● 自治体等からの支援

- ・ 新たな農地の紹介や栽培技術支援等は、県内の農業法人や農業者から受けています。
- ・ 当社の実績を見ててくれて、JA、市町村、県振興事務所から、支援の声をかけてくれるようになりました（キッチンカーの調理器具費用、商談会参加費用等の支援）。

● 参入して苦労したこと

- ・ 当初、農業分野においては、当社の知名度や認知度が無く、農地の借り入れに苦労しました。
- ・ 異業種からの参入のためか、「農業以外に使うのではないかな」と疑われた事もありました。

● 参入した成果

- ・ 圃場管理や栽培状況等、当社の取組が徐々に近隣農家等に知れ渡り、当社を信頼して土地を貸してくれるようになりました。
- ・ 経営規模、従業員数が年々増加しており、参入して暫くは赤字が続きましたが、その後は黒字に転じて、年々利益額は増加しています。

● 今後の展望

- ・ 中・長期的には、農業のテーマパーク、小さな道の駅、仲間と小さな農協（倉庫物流）を展開したいと思っています。
- ・ ベトナムに日本人レストランを開店予定であり、そのレストランやスーパー等向けに、干し芋や米の輸出を計画中です。

● 詳しい情報はこちら（会社HP）

- ・ [株式会社和みの杜](#)
- ・ [（株式会社和みの杜 | 高野商運グループ）](#)

★ 概要 ★

法人設立：2014年（農業開始は2013年）

経営面積：約42ha

栽培作物：水稻、さつまいも、じゃがいも、麦（大・小麦）、いちご、養鶏（採卵）

従業員：45名（うちパート等41名）

稻刈りの様子



平飼いでの養鶏（採卵）の様子

